

令和 7 年度 第 2 回 学校運営協議会 議事録

1 概要

- (1) 日 時 令和 7 年 9 月 27 日 (土) 午後 2 時 30 分から 4 時 30 分まで
- (2) 場 所 富士東高等学校 応接室
- (3) 出席者 学校運営協議会委員 (6 人中 5 人出席)
校長、副校長、教頭、事務長

2 議事等

(1) 校長挨拶

本日は 240 名の中学生が学校公開に参加した。8 月ロゼシアターにて学校説明会を行った。長いスパンで学校を見ていただける方に委員をお願いし、生徒募集や生徒への充実した進路実現に向けて御意見をいただきたい。前半は学校公開をご覧いただき、御意見を伺い、今年度後半の学校運営に生かしてまいりたい。

(2) 校内参観

学校公開における部活動見学

(3) 議事

ア 令和 7 年度 前期の取組報告と後期の取組予定 (副校長)

(ア) 報告内容

前期の取組として資料に基づき、探究学習の推進状況 (三菱みらい育成財団の支援事業に決定)、D Xハイスクールとしての企業との連携推進・環境整備、職員研修の実施状況、進路指導体制、学校安全、富士東分校との連携、業務改善について報告

後期の予定として資料に基づき、今後の探究学習及びD Xハイスクールの展開、学習環境整備、次年度に向けた職員視察及び職員研修の実施予定、コンプライアンスへの取組について説明

(イ) 質疑応答

a 部活動の外部指導者は何人いるのか? (委員 B)

→ 県の部活動指導員 3 人 (柔道・男子バドミントン・サッカー)、スポーツエキスパート 1 人 (男子バスケット)、文化の匠 2 人 (芸術 (美術)、日本文化 (書道)) その他多くの部活動が PTA、父母会で複数名お願いしている。吹奏楽は各パートで何人もいる。野球、サッカー、体操、ハ

ンドボール、剣道、新聞、男子バスケット、日本文化(華道)、英語等々。
ほとんどの部活動はついている。(副校長)

b 部活動指導の報酬あり、なしの区別は？(委員A)

→これまでの流れできている。県の予算では部活動指導員の時間数が一番多く基本各校1人である。本校は3人派遣枠を貰っている。続いて県の予算でスポーツエキスパート、文化の匠に申し込んでいる。希望が通らない場合、PTAから限られた予算内で補助を出してもらっている。本校との関係の中で、純粋にボランティアの方もいる。(副校長)

c 体育の教員は専門の指導ができるのか？(委員A)

→全員ではないが、専門の指導はできている(教員配置の事情により1人だけ専門外)。体育に限らず専門外の顧問にとって、外部指導員の重要性は大きい。積極的に活用したいが予算の関係で難しい。生徒減の中で部活動の再編整備の問題は富士地区でも出てきている。本校も募集停止部活がある。よって生徒の興味がある部活動がない場合もある。(副校長)

→先生方が部活動にやりがいを持って取り組んでくれればいいが、負担はものすごく大きい。うまく専門や興味と一致していただければよいが、そうでないと大変である。先生方の希望は基本聞いていきたいが、なかなかその通りいかず年度末の人事配置には苦勞する。(校長)

d 近隣の学校と合同で部活動をやる予定はあるのか？(委員E)

→高体連では部活動のルールや制限を検討していて緩和していく方向である。生徒減による過渡期の悩みである。本校柔道部も他校の生徒と一緒にやっている。正式には難しいがそういう体制をやっていないと部活動がなくなってしまう。多くの学校が部活動をなくしていく方向である。進路・部活動は大きな柱であり生徒にとって大事なものであるという認識はしている。(校長)

イ 地域協議会等について(校長)

富士・富士宮地区公立高校のグランドデザイン(R15年度までに富士は5校→3校(進学、探究・総合学科、工業)、富士宮は4校→2校 適正規模に再編する。助成金の拡大で私立高校への進学増加により、公立高校の定員割れが予想される。ギリ貧で終わるのではなく、残された年月、前倒しで前向きに新構想

高校に向かっていく。D Xハイスクールの次の戦略として、台湾生徒派遣事業(研修プログラム)の立ち上げを考えている。本年度は新竹県へ職員派遣をし、来年度生徒交流(文化・国際・半導体教育等)を企画していく。

ウ 意見交換等

- (ア) 大学としてこの学校に関わらせていただき、長い間見てきた。生徒のスキルが上がっている中で再編の話が出てきた。これは高校ばかりでなく大学も必死なところがある。これからは新しい構想が重要になってくる。デジタル化のD Xハイスクールにはオリジナリティを出して学校づくりを進めるのが大事ではないか。外部活動の生徒も中の生徒も生き生きとしていた。生徒の可能性を最大限伸ばせる教育を考えていきたい。自分として何ができるかを考えて、魅力ある学校づくりに貢献できたらと思う。(委員A)
- (イ) 本校の魅力は進学・部活・探究である。D Xハイスクールではコンソーシアムを是非やってほしい。大きくなくても現場のコーディネーターの力を生かして県大・企業・市(なくてもよいが)で作ってほしい(現場の働き方改革にも繋がる)。P C等施設が充実してきたが、授業で使うのが大事。体育でG P Sを使うのは非常に良い。生成A I の体験をもっとやってほしい。探究の充実で大学に進んでもよいのではないか。再編まで8年しかない。スピード感が大事である。待たずにどんどんやっていく、魅力をアピールしてやってしまう方がよい。再編については、O Bにも協力してもらい交通の便の良いところに新構想高校全部を集めるのがよいのではないか。3校を集めてグラウンドを共有する等、他地区にない新構想をやってほしい。(委員B)
- (ウ) 分校と共生教育が受けられるのはすごく良い、嬉しく思った。D Xハイスクールとは対極にある心の充足(心の教育)と一緒にできることが本校の最大のメリットである。そこへ台湾が加わると多様性が実現でき、良い組み合わせである。勉強だけしていても大学は受からない。「どういう特色を持って3年間過ごしてきたか」がないと勉強だけでは勝てない。「自分の高校とはこういうところだ」「自分の学んできたことはこういうことだ」といった中でその軸を持ち、さらに多様性のエッセンスが入ってくると豊かな3年間になるのではないか。本校のいいところをアピールしてほしい。(委員C)
- (エ) 富士地区高校が5校から3校へは具体化された。話は聞いていたが、3つの方向性(進学、探究、工業)にはなるほどと思った。同窓(自分の卒業した学校)というより今の予測不能な時代を生きていく子どもたちにとっていい形での統合等に重要性があると思う。(委員D)

(オ) 富士東分校では、10月8日移動教育委員会がある。教育長を招いて共生教育をテーマに開校から3年間の東高との連携取組を発表する。宣伝していきたい。(委員E)

(4) 事務連絡(副校長)

第3回学校運営協議会の開催について、2月12日(木)の実施を確認

以上